

学校教育

1 施策の概要

(1) 教職員の資質向上

学校教育に直接携わる教職員は、児童生徒の人間形成に極めて大きな影響を与えます。このため、学習指導の工夫・改善をはじめ、学級経営の充実や生徒指導の在り方など、教職員の資質を高め、学び続ける教師を支援するために各種研修会への積極的な参加を奨励します。

また、教育センターでは現場のニーズに応じて、

- 教育センター講座…今日的な課題をテーマに、指導法や対応について学ぶ
- 教育相談講座…より深い児童生徒理解を希求する
- 学校教育相談研修会…児童生徒の持つ不安や悩みなど様々な問題の解決に向けて、学校が組織的に対応する際のリーダーを育成する
- 小学校理科実技研修会…若手教員等を対象に、理科実験の基礎、観察のポイント、安全指導等について学ぶ

等の研修会を開催しています。

(2) 特色ある学校づくりへの支援（ドリームスクール・ジャンプ21）

保護者・地域住民から学校運営の状況についての関心が高まり、地域とともに歩む学校づくりを推進するとともに魅力ある学校教育が求められています。また、GIGAスクール構想の実現や新しい学校の生活様式など、学校の在り方の変革が求められる中で、自主的、創造的な取組を通じ、教育活動の特色化、活性化を推進することが重要になっています。

このため、校長の裁量により、専門家を招いた授業の実施や、地域と連携したボランティア活動等の体験を行うなど、各学校のマネジメントに応じた特色ある学校経営が推進されるよう、引き続き支援を行います。

(3) 特別支援教育の推進

特別な支援を必要とする児童生徒の就学・教育活動を支援します。

LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥／多動性障がい）、自閉症スペクトラムなど、障がいのある児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導や支援を行います。

そのため、特別支援教育コーディネーター対象の研修会を開催し、特別支援教育コーディネーターの資質向上と校内組織の充実を目指しています。また、特別支援教育に関して専門的な知識や経験を有した特別支援教育巡回指導員4名を教育センターに配置し、学校からの要請に応じて巡回相談を実施します。

さらに、個々の障がいの種別や程度に応じた適切な教育がなされるよう、特別支援学級等に在籍

する児童生徒の障がいの程度や人数に応じて、養護補助員を配置しています。本年度は41名の養護補助員を22校へ配置しています。

また、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする、児童生徒への支援を充実するため、平成20年度から特別支援教育支援員を配置しており、本年度は20名の特別支援教育支援員を20校へ配置しています。

(4) スクールカウンセラー・小学校教育相談員の効果的な活用と充実

市内全中学校及び義務教育学校に加え、成田小学校、吾妻小学校、本城小学校、公津の杜小学校に県費のスクールカウンセラーが配置され、さらに市として拠点となる小学校10校と義務教育学校2校に教育相談員を配置し、児童生徒へカウンセリング等を行うとともに、教職員及び保護者への助言・援助を行う等、効果的な活用とその充実を推進します。

また、教育相談員やスクールカウンセラー、関係校教職員等からなる教育相談連絡協議会を設置し、教育相談の理論と技能を習得し、児童生徒のもつ様々な問題解決に向けての指導力の育成を図るとともに、小中連携や外部機関との連携など、効果的な教育相談体制の確立に努めています。

(5) 学校体育の充実

児童生徒が生涯にわたり心身ともに健康で楽しく明るい生活を営むための健康の保持増進や体力の向上を図ります。近年、子どもの基礎体力の低下が叫ばれていますが、本市においても、このことを重要な課題として受け止め、児童生徒が自ら進んで体力の向上を目指した体育的諸活動の充実を推進します。

そのために、児童生徒が生涯にわたって運動に親しむための資質や能力を育むため、体育の授業の充実や教員の指導力向上を図ります。体育授業においては、優れた指導力を有する教員から指導技術を学ぶための研修会等を実施していきます。

また、小学校1・2年生体育科の「水遊び」(低学年水泳指導)の充実のために、小学校12校に体育実技指導協力者を派遣します。

さらに、運動部活動の顧問教諭による技術指導が困難な学校に対して、専門的な指導力を備えた外部指導者を派遣し、運動部活動等の更なる充実及び活性化を図ります。本年度は中学校6校に、2名の指導者を派遣しています。

(6) 安全教育の推進

心身の発達に応じた安全教育を推進し、児童生徒の安全意識を高めるために、各校の実態に応じた学校安全計画及び危機管理マニュアルの作成、安全点検や安全に関する指導(不審者対応訓練や避難訓練の実施、交通安全教室の開催等)の充実を図ります。

また、地域や保護者との連携を図りながら、学校内外の安全教育の充実と安全管理の徹底に努めます。なお、本市では、日

防犯・安全情報

2021年5月6日(木) 14:40

こちらは防災成田です。
教育委員会から地域の皆様をお願いいたします。子どもたちの下校時間になります。下校中の安全対策、見守りに御協力をお願いいたします。児童生徒のみなさんも、交通ルールを守り、安全に下校しましょう。
成田市教育委員会 教育指導課
0476-20-1582

防犯・安全情報を配信

本スポーツ振興センター法の共済掛金を市費で全額負担するとともに、中学生の自転車通学用ヘルメット購入費の半額を補助します。

子どもの登下校や戸外での活動の安全性を高めるために、小学校1年児童に通学用帽子とランドセルカバーを無償配布するとともに、児童及び生徒の希望者に防犯ブザーを貸与します。

また、防犯・安全情報等はなりたメール配信サービスを通じて保護者に連絡します。

さらに、関係機関や関係各課と連携を図りながら、「成田市通学路交通安全プログラム」をもとに成田市通学路安全推進連絡協議会を組織し、交通安全・防犯の両面から通学路における危険個所の改善に取り組み、より一層の登下校の安全確保を図ります。



通学路合同点検

(7) 情報教育の推進

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを整備し、特別な支援を必要とする児童生徒を含め、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目指しています。

各学校に、ICT支援員や教育指導課指導主事を派遣し、学習者用端末、大型ディスプレイ、指導者用デジタル教科書等の効果的な活用について、助言・指導を行い、教職員の資質や技能の向上を図ります。

また、情報セキュリティや情報モラルについては、スマートフォンやSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）上のトラブルの実態とそれを防止するための指導の在り方について、警察・専門業者・NPOなどの研究団体と協力して児童生徒、保護者への啓発を図るよう、資料の提供や研修会を推進します。

(8) 学校評議員制度の活用

地域住民の学校運営への参画を得て、地域に開かれた学校づくりを推進するため、学校ごとに学校評議員を委嘱しています。

学校評議員の職務は、校長の求めに応じて、校長の行う学校運営に関して意見を述べることです。学校・家庭・地域が手を携えて、より良い教育の実現を目指すとともに、学校の自主性・自律性を高め、校長が地域の声を把握しながら適正に学校運営を行うことを支援していきます。各学校の創意工夫を生かした取組の一層の充実を図ります。

(9) 学校施設の管理と整備

学校施設の保守点検や修繕をはじめ、老朽化や教育環境の変化に対応するための改造工事を段階的に実施します。また、バリアフリーに配慮した整備や、地球温暖化防止を視野に入れた太陽光発電の導入も進めています。

(10) 学校問題解決支援事業

学校に寄せられる様々な苦情、要望等のうち、学校の対応や取組だけでは解決が困難で、対応に法的、専門的な知識や経験を必要とする案件の問題解決を図るため、成田市学校問題解決支援チームを設置しています。

本チームは弁護士、公認心理師、精神科医等の各分野の専門家で構成し、より高度で専門的な相談体制を確立して、児童生徒をめぐる問題等が長期化、複雑化することを防止し、解決に向けて対応することにより、学校の負担軽減を図り、学校本来の役割である教育課程や生徒指導等の推進、児童生徒と向き合う時間を十分に確保できるよう学校の支援をします。

また、いじめによる自殺などの重大事態が発生した場合に備えて、平成26年度からチーム内に「成田市いじめ専門部会」を設置しています。

(11) 特認校支援事業

令和3年4月から豊住小学校は、「小規模特認校」となりました。少人数ならではの、きめ細かな指導や地域の特性を生かした活動など、特色ある教育を行う学校を「小規模特認校」とし、そのような環境で学びたい（子どもを学ばせたい）と希望する場合に、一定の条件のもと市内全域から通学を認めています。

豊住小学校では、これまでも恵まれた自然環境や、地域の歴史と伝統を生かした教育を推進してきましたが、「小規模特認校」となったことにより、さらに特色ある教育づくりを進めていきます。



2 教育センター

教育センターは、学校関係職員の研修、校内授業の支援、教育資料及び教材の収集・作成並びに活用、特別支援教育及び教育相談等の業務を行います。

(1) 学校支援の推進

教職員の資質向上のため、各種研修会の企画・運営や様々な教育関係情報の収集と提供を行います。また、教育センターだよりを発行し、本市の教育情報や成田市学力調査の結果や考察等を市内教職員で共有しています。

各教科・特別の教科 道徳・特別活動・総合的な学習の時間等の書籍を整備して、図書の貸出しや教職員の様々な要望に対するレファレンスサービスを行うとともに、ラミネート機を使った教材・資料の作成等も行います。

(2) 特別支援教育の推進

担当指導主事と学校適応専門指導員が就学前の子どもを持つ保護者の相談にあたります。成田市では、「成田市心身障害児教育支援委員会」を年4回開催し、就学に関する専門的な意見を関係者からうかがいながら、保護者と就学先についての相談を行います。委員会では、就学後のフォローアップとして、必要に応じて、子どもの発達の程度や適応の状況等を勘案しながら、在学中も学びの場について関係者と共通理解をしたり見直しをしたりするなど機能の拡充を目指しています。

また、通常の学級に在籍するLD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥／多動性障がい）等を含めた発達障がいなどのある子どもたちの適応上の課題等への対応について、担当指導主事、特別支援教育巡回指導員が学校に出向き、教職員や保護者への相談・支援を行います。

医療行為等が必要な児童生徒の学校生活を支援するため、教育センターに巡回看護師を4名配置しています。

(3) 教育相談

教育センターに1名の公認心理師（1週間に1日程度）を配置し、不登校等に悩む児童生徒や保護者、教師を対象に相談活動を行います。

また、いじめや不登校、問題行動等心の問題を抱える児童生徒に対応する教師のスキルを高めるための校内研修会及び校内事例検討会等に、講師や助言者として、成田市内の精神科医又は臨床心理士を派遣します。

(4) 社会科副読本「わたしたちの成田市」等の作成、配布

児童が地域社会の一員である自覚や地域社会に対する誇りと愛情が培われるよう、小学校3・4年生の社会科副読本「わたしたちの成田市」、指導の手引き、評価テスト、白地図等の改訂作業を毎年行い、大きく発展する成田市及び周辺地域の現状に即した資料の提供をする等、地域学習資料の充実を図ります。平成22年度から隔年発行しています。

3 教育支援センター

教育支援センターは、学校不適応等により登校できないでいる児童生徒が社会的自立に向けて学校に復帰できるよう、適応指導教室「ふれあいるーむ21」の運営を行うとともに、教育相談業務を行います。

教育支援センターでは、専任の指導主事を1名配置するとともに、8名の指導員が児童生徒の支援にあたります。また、通所する児童生徒一人一人にきめ細かく対応するため、「公認心理師」を教育支援センターに配置（1週間に1日程度）し、通所する児童生徒及び保護者に教育相談を実施しするとともに、家庭から出られない児童生徒のために、巡回指導員を配置し、家庭訪問等の支援を行います。さらに、月1回程度、様々な講師の助言を受けケース会議を行い、児童生徒の学校復帰を目指しています。

また、担当指導主事、指導員の学校訪問等により、各学校との連携を密にし、通所する児童生徒一人一人の学校復帰の足がかりとします。



教育センター・教育支援センター



教育支援センター「ふれあいるーむ21」

4 各学校・幼稚園の特色



成田市立成田小学校
(創立 明治6年)

児童数 674人
学級数 25学級

自主創造を合言葉に、やさしく・かしこく・たくましく生きる成小の子の育成に向けて、学校・家庭・地域が一体となり、教育活動を進めています。本年度は校内の研究教科を国語科とし、確かな読みの力を育む国語科指導の在り方について研究を進めています。また、LALALA教室（個別支援）を有効に活用して、個別支援の一層の充実を図ります。

本校の特色ある活動としては、昨年度は未実施だったものの、6年生がキャリア教育の一環として「キャリアトーク」を実施しています。成田中学校区の4小学校が合同で、様々な職業の方を本校にお迎えし、それぞれの職業のやりがいや工夫、苦勞などを直接聞き、将来について考えます。また、成田山新勝寺の表参道が近くにあることから、参道を歩く外国人に声をかけ、自分たちが英語の時間に練習してきたフレーズを使って話をする「参道活動」を行っています。



キャリアトーク



図画工作科授業研究会（自主公開）



成田市立遠山小学校
(創立 明治35年)

児童数 58人
学級数 7学級

本校の周りには、学校林「駒の森」があります。この森は長年にわたり地域の方々と守り育ててきた里山で、地域の誇りでありシンボルでもあります。カタクリの花やアカハライモリに代表される動植物を生かした学習を展開しています。学校教育目標「育て駒っ子 かしこく やさしく 健やかに ～ふるさとを愛し未来をたくましく切り拓く～」を実現するために、児童の豊かな人間関係づくりを基盤とし学習指導の充実を図りながら、家庭や地域と連携し、地域とともに歩む開かれた特色ある学校づくりを進めています。また、学区には成田国際空港があることから、英語学習やキャリア教育にも力を入れています。

保護者・地域の方々には本校への関心が高く協力的であり、地域人材を活用した「素敵な先輩シリーズ」と題する授業は、児童に貴重な体験や感動を与えています。



書道家による素敵な先輩シリーズ
今年の文字「楽」



駒の森をきれいにしています



成田市立三里塚小学校
(創立 昭和25年)

児童数 389人
学級数 17学級

明治24年三里塚尋常小学校として発足し、遠山小学校三里塚分教場を経て、昭和25年に遠山村立三里塚小学校として開校しました。

樹齢400年を超える「大榎」をはじめとする樹木に囲まれた自然豊かな学校で、学校教育目標は「夢に向かってがんばる子ども」です。子どもたちに「夢や希望、目標」をしっかりとめさせ、あきらめずに挑戦して「わかった・できた」という成功体験を積み重ね、「ありがとう」という感謝の気持ちを大切にしています。そして、子どもたちの心に残る（記憶に残る）小学校にしたいと考えています。

また、遠山地区の小中学校では、小小及び小中連携を積極的に推進しており、共通の「家庭学習の手引き」、「生活の手引き」の作成・活用や、生徒指導上の課題についての情報交換などを行っています。地域の方々とも連携を図りながら、児童の育成に力を入れています。



5年生「動植物検疫紹介教室」
麻薬探知犬の活躍に感動しました。



「書き初め教室」
講師の先生に教えて頂きました。



成田市立久住小学校
(創立 平成23年)

児童数 471人
学級数 19学級

学校教育目標「夢をめざし 心豊かに たくましく生きる児童の育成」のもと、「くじけず学習する子、ずっと仲よし心やさしい子、みんな元気でたくましい子、気づき・考え・行動する子」を目指して教育活動に取り組んでいます。学区は成田市のほか中央に位置し、本校周辺の開発・宅地造成地区を囲むように水田地帯や畑作地帯、里山が広がる自然豊かな地域です。居住人口も増え、児童数も年々増加しています。そのような中、保護者や地域の教育への理解や支援がとても厚く毎年、「さつまいも苗植え」、「米作り体験」「昔あそび」など、地域人材を活用し、豊かな自然の中で培われた伝統と文化を積極的に教育活動に取り入れています。本年度も、オリンピック・パラリンピックを活用した教育に取り組み、自国の文化や伝統に対する理解を図るとともに、ボランティア精神と温かいおもてなしの気持ちを育てています。さらに国際交流活動の充実と障がい者理解に努めています。



さつまいも苗植え、ボランティアさんによってマルチを張ってもらいました。



稲刈り、お米ができるまでの学習でお世話になりました。



成田市立豊住小学校
(創立 明治22年)

児童数 39人
学級数 7学級

本校学区は、成田市の北西部に位置し、北は利根川、東は根木名川が注ぐ、緑豊かな田園風景が広がり郷土の文化や伝統が息づく歴史ある地域です。祖父母や保護者の多くが本校を母校とし、学校に対して非常に協力的です。本年度「ふるさとを愛し 共に未来を拓く 児童の育成」を学校教育目標として掲げ、スローガンを『みんなで考え みんなでつくる 豊住小』とし、本年度より小規模特認校としてスタートしました。本校の特性を生かしたきめ細かな教育を推進して、主体的に生きる資質・能力の育成を図ります。また、生活科及び総合的な学習の時間を中心とした研究を通して、「自ら見方・考え方を働かせ、生き生きと表現できる児童の育成」を目指し、考えるための技法を活用した授業及び学習の工夫に取り組んでいます。福沢諭吉翁由来の校訓「独立自尊」の教えを体得することを本校の「不易」とし、地域との連携を一層密にして、地域コミュニティの核としての学校づくりを進めています。



陶芸体験を行い、陶芸文化に触れながら、作り出す喜びを感じました。



シンクシンクタイムで、タブレットを活用し、思考力と集中力を高めています。



成田市立八生小学校
(創立 明治6年)

児童数 48人
学級数 7学級

本校は明治6年に押畑学校として開校した伝統ある学校です。学区は、成田市街の中心より北西へ約3km離れた松崎・上福田地区の台地とその大地を取り巻くように開けた大竹・宝田・下福田地区の平地地帯からなり、緑豊かな自然に恵まれています。地域住民は、学校への関心が高く、行事や奉仕活動などのボランティアにとっても協力的です。

学校教育目標「やさしく かしこく すこやかに」のもと、基本的な生活・学習習慣の確立、体力向上、家庭・地域との連携を重点目標に掲げています。まず、健やかな体づくりを目指し、全校で「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」運動を推進しています。また、学校全体で朝読書や詩の暗唱、計算・漢字検定、なわ跳び検定に取り組んでいます。さらに、縦割り活動や地域との交流、豊住小学校と連携した社会科見学等、小規模校のよさを生かした学校づくりを実践しています。



成田西陵高校生徒との食育交流活動



図書委員によるクリスマスおはなし会



成田市立公津小学校
(創立 明治6年)

児童数 130人
学級数 8学級

明治6年開校の本校は、本年度創立148年を迎えました。『心豊かで 自ら学ぶ たくましい児童の育成』一すべては夢を 抱き輝く 公津っ子的ために！一を目標に、家庭・地域との連携を図り、明るく楽しく信頼される学校づくりを推進しています。「思いやりのある子」「自分で考え進んで学ぶ子」「元気でがんばる子」を目指す児童像として掲げ、豊かな学びを支える学習環境づくりを進めています。

特に「(あ) かるいあいさつ (じ) ぶんから (さ) きに (い) おうね公津っ子」を合い言葉とする【あじさい運動】に力を入れ、いつでもどこでも自分から挨拶ができる礼儀正しい児童の育成に努めています。また全校縦割り班での運動遊びを通した異学年交流(杉の子班活動)や様々な特技を持った方々とのふれあいを通した体験学習などを計画的に位置付け、豊かな情操や道徳心を育てる取り組みを大切にしています。



杉の子班での全校歩行会
公津の杜公園で長縄跳び



4～6年 芸術家の皆さんとのふれあい
アフリカンドラム ワークショップ



成田市立向台小学校
(創立 昭和47年)

児童数 232人
学級数 13学級

成田ニュータウンの中に最初に開校した小学校で、本年度創立50周年を迎えます。中台3・4・6丁目学区とし、周辺には公園が点在し、緑道が整備された緑豊かで静かな環境です。保護者の学校教育への関心は高く、環境整備、防犯等に関するボランティア活動にも協力的です。学校教育目標は「新しい時代を創造する 心豊かで たくましい児童の育成」であり、合い言葉「花いっぱい・歌声いっぱい・笑顔いっぱい」のもと、232人の児童が各教科の学習をはじめ、学校行事、花の栽培、運動・音楽等に熱心に取組んでいます。

本校は学校支援地域本部事業の推進と家庭・地域との連携強化に努め、「地域とともに歩む学校」を目指しています。子どもを真ん中に据えて、保護者・地域・職員が一体となって、子どもたちが明るく楽しい学校生活を送れるように努めています。



花いっぱい



歌声いっぱい



成田市立加良部小学校
(創立 昭和48年)

児童数 506人
学級数 21学級

成田ニュータウンの中心部に位置する本校は、近年発展著しい飯田町・江弁須地区及び再開発による大規模マンションが建ち並ぶニュータウンの加良部地区で学区を形成し、506名の児童が在籍する大規模校です。また、病気と闘いながら勉強している子どもたちのための院内学級が日赤病院内に設置されています。全職員の活気と連帯感に満ちた和の中で、教職員一人ひとりの主体性や特性が生かされる組織運営を目指すとともに、学校・保護者・地域との深い信頼と連帯の中で、子ども一人ひとりの「生きる力」を育てています。そして、「《夢を持ち 未来を拓く》」確かな学力を身に付け、心豊かで、健康な子どもを育てる」の学校教育目標のもとで、本年度も学校・保護者・地域が一致団結して「よく遊び よく学ぶ よく働く からべっ子」を育てています。



新入生へのお手伝い活動
6年生による読み聞かせ



リサイクル大作戦
ペットボトルの回収



成田市立橋賀台小学校
(創立 昭和50年)

児童数 229人
学級数 12学級

昭和50年に成田ニュータウン3校目の小学校として開校しました。橋賀台1～3丁目の集合・個人住宅に囲まれた静かな教育環境の中、碧い芝生の広いグラウンドが自慢の学校です。子どもたちは、校舎改修2年目の清潔感あふれる整った環境の中で、学校生活を送っています。

学校教育目標を、「自他ともに大切に、未来をひらく力をもつ子どもの育成」とリニューアルし、新たな気持ちで「よく考えて進んで学ぶ子」「思いやりがあり助け合う子」「丈夫でがんばりぬく子」の育成を目指しています。研究テーマを「自己肯定感を育む道德教育のあり方」とし、対話を通して物事を多面的・多角的に考え、互いの良さを認め合うことで自己肯定感を高める指導法の工夫に努めています。テーマに応じた資料を読んで、親と子で道德的価値について考える「親子で考えてみよう『道德の日』」を実施し、地域・家庭と学校で連携しながら道德的心情を育てています。



児童の登下校を見守る
橋賀台地区青少年健全育成協議会花壇



ゲストティーチャーと考えた道德授業
「ベトナムの人に安全な水を」(6年)



成田市立新山小学校
(創立 昭和52年)

児童数 204人
学級数 11学級

本校は、成田ニュータウンの中央部に位置し、学区は加良部1、3、4、5丁目からなり、創立45年目を迎えました。

校訓「みんななかよし丈夫に育て」のもと、学校教育目標に「夢に向かって心豊かにたくましく生きる児童の育成～やさしく かしく たくましく 希望の登校 満足の下校の実現～」を掲げ、教育活動の充実に努めています。

特色ある教育活動として、思いやりやリーダー性を育成するため、縦割り交流活動「すくすく班」での清掃、定期的なレク活動、長なわ跳び大会等、様々な取組をしています。また、地域の協力を得て、読み聞かせ、福祉体験学習、書き初め教室、昔の遊び交流会などの体験活動の充実と豊かな心の育成を図っています。本年度は特に、道徳教育の充実とICTの活用にも力を入れています。



旭山動物園とのリモート学習



栽培活動 サツマイモ掘り



成田市立吾妻小学校
(創立 昭和53年)

児童数 789人
学級数 26学級

本校は、成田ニュータウンの西部に位置し、創立44年目を迎えました。学区周辺には多くの古墳が点在し、グラウンドにも4基の古墳があります。本校の学校教育目標である「みんな仲良く たくましく」は、子どもたちの合言葉になっており、「思いやりのある子 喜んで働く子 (徳育)」「自ら学びとる子 (知育)」「健康でたくましい子 (体育)」を育てるため、元気なあいさつと思いやり、勤労・生産活動、基礎学力の向上、表現・思考力の向上、運動の楽しさを味わえる体育学習や健康で安全な生活習慣の獲得に日々取り組んでいます。特に、一人一鉢運動や縦割り清掃、様々な業種のゲストティーチャーによるキャリア教育「人生の先輩から学ぼう」を通して、働く喜びや夢を育む取組をしています。子どもたちの安全を守るスクールガードあづまや吾妻・はなのき台地区青少年健全育成協議会等の地域の方々の活動も活発で、ふるさと吾妻に支えられた子どもたちが生き生きと活動しています。



3色に分かれて色々な種目で新たな「あつまんフェスティバル」大盛り上がり！



6年生へ感謝の気持ちを込めたビデオメッセージによるありがとうの会に感動。



成田市立玉造小学校
(創立 昭和56年)

児童数 244人
学級数 12学級

玉造小学校の学区は、成田ニュータウン北部の玉造1丁目から4丁目、そして公津地区八代の一部から構成されています。保護者、地域ともに教育に関心が高く、本校の教育活動に大変協力的です。

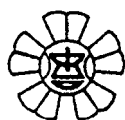
教育目標を「心豊かでたくましく生きる力を身に付けた児童の育成」とし、教育活動の充実に努めています。本年度も「チーム玉造」、知・徳・体の調和のとれた教育活動を推進し、「やさしく・かしこく・たくましく」を合言葉としています。特に、「玉っ子の約束」をもとに、学習のしつけや家庭学習を習慣化することで基礎基本の定着を図っています。また、地域の方々の協力をいただき、様々な体験活動を通して子どもたちの「豊かな心」を育てています。



創立40周年記念事業



農業体験（稲刈り）



成田市立中台小学校
(創立 昭和57年)

児童数 170人
学級数 8学級

本校は創立40周年を迎えます。学校教育目標「かしこい子どもの育成」のもと、「勉強する子（知）」「やさしい子（徳）」「元気な子（体）」を掲げ、子どもたちの「集中・ぬくもり・清潔・秩序」ある学校生活を目指しています。本校を取り巻く教育的環境は整っており、保護者・地域の関心も高く、PTAや社会福祉協議会と連携を深めています。「あいさつ運動」「花植え活動」などを行い、地域と結びつく学校づくりに取り組んでいます。創立40周年を記念とする取組も多く計画しています。学校に入るとたくさんの花や緑が迎えてくれます。笑顔と元気なあいさつが交わされ、きちんとした生活態度で授業に集中する児童の姿が見られます。コロナ禍の中ではありますが、予防対策には万全を期して、校外学習や体験的活動をはじめ情操教育を工夫して行い、心豊かな児童の育成に力を注いでいます。



運動会は半日開催でしたが、工夫をして演技・競技をし、思い出ができました。



体力づくりにも積極的に取り組み、学年ごとにマラソンの記録会を行いました。



成田市立神宮寺小学校
(創立 昭和60年)

児童数 152人
学級数 8学級

創立37周年を迎える本校は、成田ニュータウン北部にあり、近くには、成田スカイアクセスの成田湯川駅があります。保護者は全国各地から移り住んできていることから、新たなふるさとづくりをめざして「神宮寺祭り」「どんど焼き」などの文化活動や、各種スポーツ大会など独自の行事が定着してきました。保護者の教育的関心は高く、読み聞かせ・環境美化・リサイクル活動・防犯パトロール活動などのPTA活動も盛んです。また、隣接する成田北高校とは、先生や生徒による「おもしろ実験教室」や各運動部の生徒との綱引き練習など、交流を行っています。さらに、地域の学習ボランティアによる学習会「神小寺子屋」を毎朝開催し、学校支援事業として確立しています。このように学校と家庭、地域の連携が取れている環境の中、「心豊かでたくましく実践力のある児童の育成」の学校教育目標のもと、「知・徳・体の調和」を図り「よく学び、よく遊べ、感動いっぱい神宮寺小」を合言葉に全教職員が力を合わせて学校教育活動に取り組んでいます。



「ひまわりばたけ」の方が、月2回ほど各学級へ読み聞かせに来ています。



卒業生である落語家の方が4年生へ、落語の面白さを教えに来ています。



成田市立平成小学校
(創立 平成2年)

児童数 541人
学級数 20学級

本校の学区は、成田市の南西に位置し、富里市・酒々井町と隣接した並木町・飯仲地区から成り立っています。国道51号線周辺に散在する古くからの街並みと、JR線南側（富里市側）に宅地造成の開発が進んだことによる、新しい地域が混在しています。

学校教育目標を「夢を抱き たくましく生きぬく 人づくりをめざして ~知・徳・体の調和~」としました。いつでも夢や希望を抱きながら精一杯全力で頑張る児童の育成に向けて、全教職員が力を合わせて取り組んでいます。「全力でがんばる子」の育成を目指し、一生懸命努力すること、努力し続けて感動を味わわせることを目的に、運動部（陸上、綱引き）と合唱部の活動を通年行っています。また、子どもたちが夢や希望を抱きつつ、健全に成長するために地域で子どもを育て守る体制づくり（「平成小学区ゆめ協議会」本年度11年目）が推進されています。



表現運動発表会では子どもたちの元気な声と明るい笑顔が校庭にあふれました。



動植物検疫紹介教室で麻薬探知犬の様子を見たり病害虫観察をしたりしました。



成田市立本城小学校
(創立 平成5年)

児童数 410人
学級数 19学級

本城という地区名は、この地を開発して住み着いた人々が、自分たちの本当の根城にしようという願いを込めて付けたと言われています。地域住民の方々は、地域の学校としての意識が強く教育熱心であり、学校教育に対する強い期待を持ち協力的です。来年度で創立30周年を迎える本校は、「たくましく心豊かな子どもの育成」を学校教育目標とし、学校・家庭・地域の連携を密にして、一人一人の児童が充実した楽しい学校生活を送ることができるように努めています。

本年度は、『生徒指導の機能を生かした授業づくり』をテーマにした算数科研究の公開発表を秋に予定しています。児童が「わかった」「今日の授業は楽しかった」という達成感を味わい、主体的に学ぶことのできる力の育成を目指すとともに自己肯定感が高まるように、様々な異学年交流（なかよし班活動など）や体験活動に取り組んでいます。



算数科の学び合い授業
「ぼくの説明 わかるかな」



なかよし班活動
「みんなで遊ぶと楽しいね」



成田市立公津の杜小学校
(創立 平成18年)

児童数 776人
学級数 28学級

開校16年目を迎える本校は、学校教育目標である「未来を拓く心豊かでたくましい児童の育成」を目指して、『希望の登校、満足の下校 ～みんな仲良し、じょうぶに育て～』を教職員の合言葉にしています。

児童一人一人が自主と自立・自由と自律を意識し、自分を高める5つの「自」(5自(ファイブジー))の実現を目指しています。

タブレット端末を効果的に活用した授業の実現を目指し、校内研修の充実を図るとともに、読書の習慣化を図ることで豊かな表現力を身に付け、より良い人間関係が築ける集団づくりと学校生活の充実を目指しています。



モリンピック (運動会)



4年生社会科見学 (宗吾霊堂)



成田市立美郷台小学校
(創立 平成19年)

児童数 315人
学級数 14学級

日本一『幸せ』な学校 ～夢を持ち、夢を語ることができる学校～ を学校教育目標とし、開校15年目を迎えた本年度は、目指す児童像を「学ぶことをあきらめない子」「人も物も大切にできる子」「よく食べよく遊べる子」と、より具体的に示して教育活動に取り組んでいます。また、清潔感のある明るく広い校舎、開放感のあるグラウンドや中庭に加えて、一昨年度末に完成した学校給食共同調理場が昨年度より本格的に稼働しました。

4年目を迎える学校支援地域本部事業では、地域コーディネーターの力をお借りし、地元の人的・物的資源の活用を図りながら、「米作り」「車椅子体験」「ミシン学習補助」「書き初め学習補助」など、多くの体験活動を充実させることができています。また、地域の方との交流を通じて、優しさや感謝の心、豊かな人間性も育てています。



地域の方と
稲刈り体験をしました。



社会福祉協議会の方と
車椅子体験をしました。



成田市立成田中学校
(創立 昭和22年)

生徒数 537人
学級数 19学級

「豊かな心を持ち、心身ともにたくましく、自らの進路を切り拓く生徒」を学校教育目標に掲げ、『子どもたちが夢を持ち、明日も行きたいと思える学校』『挨拶と歌声であふれる元気な学校』をスローガンに全教職員一丸となり教育活動を実践しています。「元気なあいさつ」と「さわやかな歌声」が響き渡る活気ある学校づくりに向け、生徒会や委員会が中心となり子どもたちの主体的な活動を推進しています。

また、授業では、「わかる授業」「楽しい授業」のために生徒の視点に立った指導方法の工夫改善に取り組んでいます。外国語教育において、「生きた英語力」を身に付けさせるため、ALTを積極的に活用したコミュニケーション能力を高める授業づくり、数学科においては、少人数やチームティーチングを取り入れたきめ細かな指導方法の工夫改善に取り組み、子どもたちの学力の向上を目指しています。



ICT機器を活用した
夢実現講演会の開催



積極的なコミュニケーションを
取り入れた英語学習



成田市立遠山中学校
(創立 昭和22年)

生徒数 405人
学級数 15学級

本校は、成田国際空港に最も近く豊かな文化と長い歴史を有した中学校です。「目指す未来の実現に向けて、何事にも粘り強く取り組む生徒の育成」を学校教育目標に掲げ、様々な教育活動を展開しています。特に、生徒の自治的活動の推進に重点を置き、学校行事では企画・運営に生徒が参画することにより、成就感や感動する心を育むことを目指しています。さらに、いじめ防止に向けて、「イエローリボンキャンペーン」の実施や「いじめ問題全国子供サミット」への参加など、生徒が主体となって活動しています。

学習指導については、ICT機器を積極的に活用した授業を推進しています。また、外国籍生徒への日本語指導など、生徒の実態に応じた個別支援を充実させることにより、生徒の基礎学力の向上を目指しています。

本校の学区は広域で9割以上の生徒が自転車通学をしているため、本校の生徒が学区内の小学校に出向き自転車の乗り方教室を行うなど、小中学校が連携しての交通安全教育にも力を入れています。



本校生徒が小学校に出向き、
自転車安全教室を実施しています。



成田空港に近いという利点を生かして、
写生会を実施しました。



成田市立久住中学校
(創立 昭和22年)

生徒数 168人
学級数 9学級

本校の学区は、成田市の中央に位置し、学区内にJR久住駅があります。近年、久住中央地区の宅地開発に伴い生徒数が増加し、本年度は2学級増え、全校生徒が168人となりました。今後も生徒が増える見込みです。平成23年度の学区小学校の統合によって一小一中学区となり、小中連携教育の推進に努めています。平成29年度には校舎増築棟が完成し、最新の設備と恵まれた自然環境のなかで子どもたちは学校生活を送っています。純朴で素直な生徒が多く、身体を動かすことが好きであり、学校行事や諸活動に積極的に取り組んでいます。学校教育目標の「一人一人の学びを大切に生きる力を育成する ～安全と健康を最優先とした教育活動を通して～」のもと、明るく活気に満ちた学校づくり、暮らすみんなが安心して学べる学校づくりを推進しています。



ミュージカル (シンバットの冒険)
体験型講座



伝統芸能ふれあい体験教室



成田市立西中学校
(創立 昭和39年)

生徒数 467人
学級数 19学級

本校は白亜の大きな校舎、広い体育館、陸上競技場など恵まれた施設・設備のもと『文武両道 熱き西中魂』『一生懸命がかっこいい』をスローガンに掲げ、明るく元気に前向きに活動に励んでいます。また、「将来への希望を持ち、一人一人が未来を切り拓くことができる学校」を学校教育目標の一つとして掲げ、将来、社会の中で自分らしい役割を果たせるために「コミュニケーションの力」「将来を考える力」「課題を把握・解決する力」「自分を知り・改善する力」の4つの能力を身に付けられるように全教育活動を通じてキャリア教育活動の推進を図っています。本年度はGIGAスクール構想に向けてタブレット端末等の活用を積極的に進め「主体的・対話的・深い学び」の実現に向けて取り組んでいます。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の配慮をしていかなければいけない中、日常の教育活動や学校行事を最大限にできることを生徒や保護者ととも考え、本校の教育目標である「たくましく生きる、心豊かな生徒の育成」の具現化に向けて努めていきます。



上高地・白馬への修学旅行



タブレット端末を活用した授業



成田市立中台中学校
(創立 昭和48年)

生徒数 255人
学級数 10学級

本校の生徒は、成田ニュータウンの4つの小学校区（向台小学校・中台小学校・新山小学校・加良部小学校）から通学しています。学校教育目標「自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成」を目指し、日々教育活動に取り組んでいます。

本年度は69人の新入生を迎え、全校生徒255人が自主的に取り組むことを目標に、学習に部活動に毎日頑張っています。英語検定や漢字検定等の受検者も多く、合格率も向上しています。また、体育祭、合唱コンクール等の学校行事への取組や、地域のボランティア活動への参加にも積極的で、地域で行われるクリーン作戦、敬老会、歳末助け合い街頭募金活動などに参加しています。さらに、福祉教育の研究指定（H25～H27）を機に地域との密着力を強くしています。



体育祭
常に全力！！



「いじめ撲滅スローガン」
全校作成



成田市立吾妻中学校
(創立 昭和53年)

生徒数 497人
学級数 18学級

成田ニュータウンの西に位置する本校は、橋賀台地区、吾妻地区、はなのき台地区及び隣接する船形地区の一部を学区とし、春には校地を取り囲む数十本の八重桜が美しい花を咲かせる素晴らしい環境に恵まれています。近年ははなのき台地区の開発に伴い生徒数が急増しており、来年度が最大規模となるものと予想されています。そのため、令和2年度末にプレハブ校舎が完成し、本年度から使用しています。

学校教育目標は「次代をひらき、心豊かにたくましく、生きる力を身に付けた生徒の育成」であり、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指し、職員一同、全力で取り組んでいます。中でも、国際性や実践的なコミュニケーション能力の基礎を身に付けた生徒を育成するために、独自の教育課程を編成し、英語授業の充実を図っています。



体育館での開催となった
合唱コンクール



キャリア教育の一環として行われた
「職業人に聴く会」



成田市立玉造中学校
(創立 昭和60年)

生徒数 282人
学級数 11学級

本校は成田ニュータウンの北端にあり、玉造地区（1～7丁目）、八生地区の上福田・大竹・松崎及び公津地区の八代から学区が成り立っています。入学してくる生徒は、玉造小・神宮寺小・八生小の3校で9割以上を占め、本年度は合計282名で日々の学校生活を送っています。

平成27年5月に生徒総会で議決した、「挨拶・返事」、「学習」、「合唱活動」、「無言清掃」、「団結力」の「当たり前5項目」を当たり前できるように、日々取り組んでいます。昨年来、コロナ禍の中で「新しい生活様式」の構築に向けて、前進しています。目指す生徒像「誰かの役に立つ行い」の実現に向け、2年度末の予餞会では、事前に収録した動画配信や、教室外からのサプライズ合唱を試みました。また3年度の新入生歓迎会でも密を避ける形を工夫し、生徒総会はタブレット端末を活用し成果を上げました。制限がある中での活動ですが、今後も創意工夫を持って、教育活動にあたっています。



予餞会での在校生の「送る歌」風景



タブレット端末を活用した生徒総会



成田市立公津の杜中学校
(創立 平成25年)

生徒数 624人
学級数 21学級

本校は、平成25年に生徒数497人で開校して9年目を迎えました。生徒数は年々増加し、本年度は624人と、市内で最も大きな規模の中学校となっています。保護者をはじめとする地域の方々の温かな支援のもとで、生徒たちはのびのびと学習しています。

学校教育目標は、「未来を拓く心豊かでたくましい生徒の育成」です。《生徒も保護者も職員も「公津の杜中でよかった!」と思える学校を目指し、学習や自治的活動、家庭・地域との連携による健全育成に取り組んでいます。特に生徒会活動では、日頃から自分の役割を自覚し、互いに協力し合う姿が見られます。本年度も入学式の進行を生徒が務めました。刻々と変化していく社会の中にあっても、主体的に判断し行動し、いける生徒を育成するため、タブレットの活用を積極的に取り入れて教育活動の充実を図っています。



生徒が進行を務める入学式



タブレットを活用した授業



成田市立下総みどり学園
(創立 平成29年)

児童生徒数 373人
学級数 21学級

本校は、平成29年に施設一体型の義務教育学校としてスタートし5年目を迎えました。「地域とともに夢と希望に向かってたくましく生きる下総っ子」を学校目標として、義務教育9年間を通した指導方針のもと、一人一人の子どもが着実に学力を身に付け、心身ともに健全で、豊かな人間性と社会性を発揮できる人間として成長していけるよう連続した学びを実践しています。そのために、9年間を前期(1~4学年)、中期(5~7学年)、後期(8・9学年)の3つのブロックに分け、それぞれの発達段階に応じた学習面・生活面の目標を設定して教育活動を行っています。現在は、以前と同様の教育が困難ですが、可能なことを見つけ出し工夫をしながら教育活動を実践しています。また、「世界一仲の良い学校」として円滑な人間関係を築くことを目指しながら、地域や高校とも積極的に連携し児童生徒の育成を行なっています。



前期と中後期ブロックに分けての体育祭



オンラインで実施の音楽祭



成田市立大栄みらい学園
(創立 令和3年)

児童生徒数 610人
学級数 27学級

本校は、大栄地区の5つの小学校と1つの中学校（大須賀小・桜田小・前林小・津富浦小・川上小・大栄中）が統合し、本年度、新たに義務教育学校として開校しました。小学校・中学校の垣根（壁、区分、柵）をなくし、9か年を通してふるさと大栄を愛し、郷土として誇れる『大栄っ子』を地域とともに育てることを基本理念とし、「未来を切り拓き 社会で活躍できる 人間性豊かな人材の育成～自主自立 未来創造 郷土愛～」を教育目標としています。

開校時は、津富浦小校舎に1～4年生、大栄中校舎に5～9年生が通学する分離での開校となりましたが、6月より新校舎で施設一体型の義務教育学校としてスタートを切りました。学区も大変広く、1～6年生の大半はスクールバスを利用して登下校しています。学校の特徴を活かし、全ての教育活動を通して、異学年交流を推進しています。



第1回となる入学式
～津富浦小校舎にて～



委員会活動の様子
～前後期課程交流活動～

成田市立大栄幼稚園
(創立 平成8年)

園児数 86人
学級数 5学級

本園は、成田市の東部に位置し、大須賀川沿いの水田地帯を望む高台にあり、自然豊かな環境に恵まれ、大栄保育園や大栄B&G海洋センター・ナスパスタジアム等の公共施設も隣接しています。園児は、大栄地区のみならず市内の他の地域からも通園しており、広々とした園庭で、日々元気いっぱい活動しています。また、園周辺の地域を利用したり、緑豊かな自然との触れ合いを大切にした保育を実施しています。「たくましく心豊かに生きる子どもの育成」を教育目標に、「明るく元気な子ども・自分のことは自分でする子ども・友だちとなかよく遊ぶ子ども・意欲がありねばり強い子ども」の育成に努めています。

本年度は、3歳児2クラス24名・4歳児1クラス6名、合計30名の新入園児を迎え5クラス86名でスタートしました。保護者と連携を取りながら、園児が健やかに明るく元気に過ごせるように職員一同、より良い幼児教育に日々努めています。



異年齢交流 年長児を見て年中児も制作
個性豊かな蝶々ができました！



玄関ホールの共用舞台上で…
友だちと楽しく踊っています♪

5 学校給食センター

学校給食センターでは、学校給食を教育活動の一環として提供することにより、児童生徒の心身の健全な発達に資しています。

現在は本所、玉造分所、下総分所、大栄分所、公津の杜中学校学校給食共同調理場、本城小学校学校給食共同調理場、公津の杜小学校学校給食共同調理場、美郷台小学校学校給食共同調理場で給食を調理しています。

(1) 食に関する指導の充実

食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせ、生涯にわたって健やかな心身と豊かな人間性を育むため、給食時間等の指導のほか、食に関する授業を行っています。

また、家庭教育学級や給食だよりなどを通じて情報提供を行うことにより、家庭における食育を促しています。



栄養教諭による食に関する指導

(2) 献立の充実

ア 学校給食の食事内容が、衛生的かつ安全であることはもとより、栄養バランスのとれた魅力あるものとなるよう努めています。

また、食事は調理後できるだけ短時間に適温で提供できるよう、十分な配慮を行います。

イ 献立作成及び調理にあたっては、児童生徒のし好の偏りをなくし、多様な食事内容に親しむことができるような食品の組み合わせや調理方法の工夫に努めます。

ウ 学校給食の献立作成にあたっては、食材の種類を幅広く求め、また、成田産の食材を取り入れた食事内容の充実及び摂取栄養量の確保に努めます。

エ 成田産食材の使用として、主食となる米飯は全て成田産コシヒカリを使用し、野菜についてもできるだけ成田産を使用するよう努めています。

(3) 衛生管理の推進

児童生徒を対象としている学校給食は、特に衛生管理（食中毒等の事故防止）に万全を期さなければなりません。そのため、学校給食センターでは、衛生管理体制を確立し、原材料及び調理後の食品の温度管理の徹底や二次汚染防止等に努めています。

また、職員の健康管理等を行うとともに、保健所の指導、助言を受けつつ、調理作業、衛生管理に努めています。

児童又は生徒一人一回当たりの学校給食摂取基準

区 分	基 準 値			
	児童(6歳～7歳)の場合	児童(8歳～9歳)の場合	児童(10歳～11歳)の場合	生徒(12歳～14歳)の場合
エネルギー (kcal)	530	650	780	830
たんぱく質 (%)	学校給食における摂取エネルギー全体の13%から20%			
脂質 (%)	学校給食における摂取エネルギー全体の20%から30%			
ナトリウム (食塩相当量) (g)	1.5未満	2 未満	2 未満	2.5未満
カルシウム (mg)	290	350	360	450
マグネシウム (mg)	40	50	70	120
鉄 (mg)	2	3	3.5	4.5
ビタミンA (μ gRAE)	160	200	240	300
ビタミンB1 (mg)	0.3	0.4	0.5	0.5
ビタミンB2 (mg)	0.4	0.4	0.5	0.6
ビタミンC (mg)	20	25	30	35
食物繊維 (g)	4 以上	4.5以上	5 以上	7 以上

- 1 表に掲げるもののほか、次に掲げるものについても示した摂取について配慮すること。
亜鉛……児童(6歳～7歳) 2mg、児童(8歳～9歳) 2mg、
児童(10歳～11歳) 2mg、生徒(12歳～14歳) 3mg
- 2 この摂取基準は、全国的な平均値を示したものであるから、適用に当たっては、個々の健康及び生活活動等の実態並びに地域の実情等に十分配慮し、弾力的に運用すること。
- 3 献立の作成に当たっては、多様な食品を適切に組み合わせるよう配慮すること。

(4) 地域との連携

本市の給食についての考え方や取組を伝え、実際に味わっていただくことで、給食の良さを広く市民に伝えることを目的とした「なりたの五つ星給食レストラン」を開催しています。

(5) 給食施設の整備

学校給食センター本所、玉造分所の老朽化に伴う施設の再整備にあたり、児童生徒にとってよりよい給食環境の構築を図るため、平成21年度に施設整備基本計画を、平成22年度に施設整備実施計画を策定しました。その後、平成26年度に実施計画を見直しました。この実施計画に基づいてアレルギー対応食の提供、温かい給食の提供及び食育の推進が可能となる親子方式(※)による施設の整備を進めています。



美郷台小学校学校給食共同調理場

令和2年4月には、親子方式による4番目の施設となる美郷台小学校学校給食共同調理場の供用を開始しました。

また、5番目の施設となる平成小学校学校給食共同調理場の整備については、令和2年度から3年度までの継続事業として建設工事を進めています。

※敷地に余裕のある学校に給食施設を設置し、近隣のいくつかの学校に配食する方式